

- ・研究討議、全体会議
- ・国語、社会、算数、理科、研究運営の分科会にて研究討議

イ. 第2日 研究報告、教育懇談

- ・複式学級における学習指導法の研究報告
- ・研究をささえる基礎理論について
- ・教育研究に対する構想についての教育懇談

ウ. 会場

- ・安達町立油井小学校
- ・福島県教育研究所

エ. 参加者 本庁ならびに出張所の指導主事

2 望ましい学習指導法の組織化の研究

(1) 研究の目的

この研究は、昭和37年度より4か年継続して行なわれてきた研究である。今年度はその最終年度にあたる。

この研究の目的は、ひとりひとりの子どもが自主的、自発的に学力を身につける学習ができるようにするため、家庭における家習を学校における学習にくみ入れることによって子どもの学習のレディネスを高め、学習指導の個別化やたしかめの理論にささえられた学習指導法を組織化するしかたを明らかにすることにある。

この研究は実験学校を設けて行なわれたアクションリサーチによる研究であるので、実践をとおして理論的な考え方に修正を加えながらすすめられたものである。

特に、研究の最終年度にあたるので、今まで明らかにされた理論的な考え方を整理するとともに、検証のしかたに焦点をおいて行なわれたのである。

(2) 研究の内容

この研究のもとになる基本的な考え方は、“主体的な学習”ということと、“組織化”ということである。

さきの“主体的な学習”とは、真理を行為に具現し、望ましい自己変革をとげようとする全人的な能動性に根ざす学習をいうのである。いわば、子どもたちのひとりひとりが全力をあげてみずからすすんで学習にとりくむことである。それには、子どもたちが、ひとりてたち向いみずから高めようとする情意的なあり方を強調することである。

つぎに“組織化”ということであるが、指導法において“望ましい”といわれるものは、ただ一つの考え方だけではいけない。いくつかのものが統合されて望ましいものになり得る。それには、厳密にそれ自体を分析して得た要素を全体の中に位置づけ、役わりをもたせることである。

以上の考え方にもとづいてなされたくふうの一つが“予習の課題による学習”なのである。

予習的課題による学習は、つぎのようなものである。

- ① 家庭で行なわれる個人学習である。
- ② 予習や復習を予習の方向にととのえることである。

- ③ 予習や復習を問題の形でとりくませることである。
- ④ それ自体ねらいをもつのではあるが、あくまで授業充実のための手だての一つである。
- ⑤ 授業のまとめの段階で、“もっと勉強したい”という気持ちにささえられて構成されるものである。

この方法を充実させるには、教師の指導技術を練磨しなければならない。すなわち、教師の指導計画立案にあたっては、子どものレディネスを正しくとらえ、子どもの能力にみあった教材を精選し、時間が過度にのびたりしないようにするとか、子どもの聞きとり聞き分けや完成されたセンテンスによる話し方、書き方、話し合いのしかたを訓練するとか、家庭に対して、子どもが学習しやすいふん囲気をつくるなどの機能的な協力を育てるとかなどに心がけることである。

(3) 実践にみられる変容の状態

① 子どもの学力

福島県標準、診断学力テストの結果でみてみよう。

		国語	社会	算数	理科
4年	39年度の4年	62.2		60.1	
	38年度の3年	60.0		57.8	
5年	39年度の5年	63.5	57.1	60.6	54.5
	38年度の4年	57.7	53.6	58.4	52.2
6年	39年度の6年	62.5	59.6	60.8	60.0
	38年度の5年	56.7	54.5	58.1	53.8

(注)・数値は学力偏差値である。

・同一の子どもの2か年の比較である。

わずかずつではあるが、向上のあとがはっきりみられる。ことに6年の国語、理科については約11%のびが認められる。これを、領域別にみた次の表ではさらにはっきりしている。

〈国語〉	読字	読解	鑑賞	語句	ことば	書字	平均
39年度6年	63	61	60	60	66	65	62.5
38年度5年	57	57	56	55	57	58	56.7

それぞれ約6～16%ののびがみられる。特に、読字、書字、ことばに関する領域において、めだつたのびがみられる。

〈社会〉	地図資料	年表資料	統計資料	地域間の関係	うつり変わり	しくみ	自然との生活	関連	平均
39年度6年	63	54	57	60	62	62	55	64	59.6
38年度5年	57	52	57	57	53	56	53	51	54.5

それぞれ約4～24%ののびがみられる。特に、関連的なみかたやうつりかわりに対するみかた、考え方に、いちじるしいのびがみられる。

〈算数〉	数と計算	量と測定	数量関係	図形	問題解決	平均
39年度6年	58	61	60	66	60	60.8
38年度5年	57	58	60	64	58	58.1